



# 次年度に向けて

平成27年3月19日  
神戸市住宅都市局計画部計画課

# 元町通 1 交差点の位置付けと目指す方向性

## 位置付け



## 求められる機能

- ゆったりと歩くことができる歩行者空間
- 憩いたたずむことができるたまり空間
- 都心・ウォーターフロントを回遊する拠点  
(公共交通等とのスムーズな乗換拠点)
- まちのにぎわいを演出する空間  
(地域が主体となったイベント等による  
にぎわいづくり)

現在の自動車交通に影響を与えない範囲で、道路空間を見直し、

**「ひと」中心の交通環境に変えていく**

# 交通社会実験の結果を受けて

## 実験の目的① 自動車交通への影響検証

歩行者空間を広げるために、車線数を1車線減らした場合の自動車交通への影響を確認

- ・鯉川筋において、一部の時間帯で滞留が伸びる状況が見受けられたが、全体的に見れば大きな混乱はなかった。
- ・ただし、元町駅東交差点での右左折車両対策や観光バス・荷捌き等の路上駐停車対策等は必要である。

⇒ 必要な対策を取ることで、車線を減らし歩行者空間を広げることが可能

## 実験の目的② 歩行者が多い道路における自転車利用のあり方検討

より安全・安心で快適な歩行環境を目指して、

- ①歩道を通行する自転車を車道に誘導するとともに、
  - ②歩道上で自転車の押し歩きの協力を呼びかける「押しチャリ」を啓発
- ・車道を走行する自転車、歩道上での「押しチャリ」の割合が増加した。  
また、歩行者と自転車の錯綜が減少した。

⇒ 自転車利用マナーの向上や路上駐輪対策により歩行環境の向上を図ることが可能

# 来年度の取組み（案）

## 来年度実施を予定している事項

### ■各種調査の実施

#### ①歩行者流動調査

周辺に広く回遊が広がる歩行者動線を検討するため、穴門商店街等も含めた歩行者の流動を調査

#### ②荷捌き・駐停車等実態調査

駐停車場所、時間、頻度、利用意向等を調査

#### ③公共交通のあり方調査

路線バスや観光バスの駐停車場所、時間、頻度等を調査



### ■道路空間のあり方検討

#### ①比較検討案

各種調査の結果等をもとに、歩行空間、荷捌きスペース、自動車の走行空間など、必要な機能やその配置について複数案を比較検討

#### ②イメージパースの作成

検討案をもとに、デザインや景観等にも配慮したパースを作成する



当該地で目指す空間像  
について  
地域の方々や関係機関と  
合意形成を図る

## 《実施スケジュール》

